# 友の会だより №28

（2015年4月1日発行）

自転車文化センター
〒141-0021　東京都品川区上大崎 3-3-1
TEL 03-4334-7953 / FAX 03-4334-7958
Email　bccask@jifu.jp
OPEN　9:30~17:00（最終入館 16:45）
CLOSE　月曜日(祝日の場合は翌平日)・年末年始

## ♪リニューアルオープン 祝１周年のご案内♪

おかげ様をもちまして、自転車文化センターは千代田区の科学技術館から品川区上大崎に移転リニューアルオープンをして１年が経ちました。そこで、１周年を記念し細やかではありますが、記念品をご用意させて頂きました。つきましては、平成２７年４月２日から５月31日までの期間に、ご来館頂いた会員様お一人一個、先着３００名様（なくなり次第終了）にプレゼントさせて頂きますのでご来館お待ちしております。

## ～平成２７年度テーマ展示第１弾～ ５月は『自転車月間』 自転車月間・自転車ロードレース「ツアー・オブ・ジャパン」展を開催

■開 催 日　：　平成２７年４月１日(水)～６月２１日(日)
■開催場所　：　ＢＣＣライブラリー・ギャラリー
■開催時間　：　午前９時 30 分から午後５時まで(最終入館は４時４５分まで)
■内　　容　：　５月は『自転車月間』と題しイベント開催告知案内・ＴＯＪ各ステージの紹介等

◆＜サイクルドリームフェスタ２０１５＞
５月５日は自転車の日です！自転車を安全に楽しく乗って頂くためのイベント
日時：平成２７年５月５日(火・祝)　１０時～１６時　【荒天中止】
会場：明治神宮外苑　聖徳記念絵画館前通り　入場無料
☞詳しい内容は http://bikecology.bpaj.or.jp/bikemonth/2015/2015info

◆＜18th TOUR　OF JAPAN＞
今年で１８回を迎えるサイクルロードレース「ツアー・オブ・ジャパン」今回も国内外の１７チームが参戦！全７ステージ・総走行距離 642.45ｋｍ(予定)

| | | | |
|---|---|---|---|
| 平成２７年５月１７日(日) | 堺ステージ | 2.65km(個人タイムトライアル) |
| ５月１９日(火) | いなべステージ | 130.7km(新ステージ) |
| ５月２０日(水) | 美濃ステージ | 139.4km |
| ５月２１日(木) | 南信州ステージ | 123.6km |
| ５月２２日(金) | 富士山ステージ | 11.4km(ヒルクライム) |
| ５月２３日(土) | 伊豆ステージ | 122.0km |
| ５月２４日(日) | 東京ステージ | 112.7km |

☞公式ＨＰhttp://www.toj.co.jp

## 寄贈資料の紹介

・ 杉田様（東京都）　　自転車（横山産業製ヒシティ号）1 台

・ 山内様（神奈川県）　　昭和初期の幼児用三輪車の写真 1 点

・ 中西様（静岡県）　　引き札(ゼブラ自転車・富士自転車)・はがき・冊子・写真・カード他計 70 点

自転車文化センターでは、寄贈された貴重な資料を大切に保管し、テーマ展示等を通じてご覧いただける機会を設けております。

## 新着図書のご案内

「ツール・ド・フランス１００レース激闘と栄光の記憶」（ピーター・コシンズ、イザベル・ベスト著 / SB クリエイティブ
「スコット親子、日本を駆ける」（チャールズ·R.スコット、児島 修　著 / 紀伊國屋書店）
「１５折りたたみ自転車＆スモールバイク」（辰巳出版）
「BICYCLE　PLUS　12」（枻出版社）
「ロードバイク超楽々トレーニング BOOK」（マガジンボックス）
「ロードバイクカタログ２０１５」（八重洲出版）
「自転車完全ガイド」（イリオス 著 / 晋遊舎）
「ロードバイクオールカタログ　国内販売モデル１５１ブランド　最新ロードバイク＆フレーム１１８２台」（枻出版社）
「ロードバイクの基本最短マスター！」（枻出版社）
「ロードバイクを始めるときに読む本」（枻出版社）
「ハンドメイドバイシクル BOOK」（枻出版社）
「サイクルパーツオールカタログ」（八重洲出版）
「サイクルロードレース名選手・各レース列伝」（洋泉社）
「ロードバイクインプレッション」注目バイクの真価が解る！（枻出版社）
「とことん自転車」（鶴見辰吾 著 / 小学館）
「BYCYLE TRIP」（実業之日本社）
「クロスバイクのメンテナンス事典」（スタジオタッククリエイティブ）
「MTB 日和　家近からトイレまでバランスアップで MTB がもっと楽しく！（辰巳出版）
「誰でもできる自転車メンテナンス 新版（竹内正昭 著 / 山と渓谷社）
「自転車日和 Vol. ３４　自分の道は自分で決める！お好み ツーリングプランのつくりかた」（辰巳出版）
「自転車日和 Vol. ３５（辰巳出版）
「弱虫ペダル」37～38 巻（渡辺航 著 / 秋田書店）
「MOUNTAIN BIKE ACTION」Vol.30 - 1～4

# 自転車文化センター友の会【１日ご利用システム】のご案内

自転車文化センターでは、みなさまにもっと当センターを活用していただきたいと思い、2015年4月よりそれまでは無かった【１日ご利用システム】を設置することといたしました。
この機会に是非、ご利用してみてはいかがでしょうか♪
＊なお、ご利用の詳細につきましてはＢＣＣのＨＰ又はＢＣＣまでお問い合わせください。

## 「ＢＣＣ友の会」会員募集中♪

自転車に関する書籍など、約9000冊を所蔵しています。会員登録をしていただいた方に限り、図書の自由閲覧をすることができます。
会員各位におかれましては、ご友人様などご紹介頂けたら幸いです。

## 【休館日】

**月曜休館（祝日は開館し、翌平日が休館となります)**

4月 6日、13日、20日、27日
5月 7日(木)、11日、18日、25日
6月1日、8日、15日、22日、29日
23日(火)、30日(火)は臨時休館いたします。
**☆5月の連休は開館しております**

## 科学技術館入館チケット（招待券）プレゼント！

科学技術館（千代田区北の丸公園）「２Ｆ自転車広場」には、当センター所蔵の歴史的自転車などの常設展示を引き続き行っております。ぜひお立ち寄りください。

♡友の会会員の方に科学技術館入館チケット(招待券)を先着10名様（お一人様２枚まで）に差し上げます。
自転車文化センター(目黒)にご来館のうえ、インフォメーションカウンターまで、お申し出ください。

# 自転車に乗った女学生　（２）

ＢＣＣ学芸員　谷田貝一男

４．女学生の髪型

明治４年（１８７１年）８月９日（以下、「明治」の元号は省略します)、男性に対して太政官布告の散髪脱刀令による「散髪制服略服脱刀随意ニ任セ礼服ノ節ハ帯刀セシム」で髪型を自由とし、髷（まげ）を落とすことを認めた結果、官吏を中心に髪型が変化していきました。ところがこの散髪脱刀令の趣旨を「女子も散髪すべきである」と誤解した女性が男性同様の短髪にすることがあったため、東京府は５年（１８７２年）１１月に様々な禁止事項を定めた違式詿違条例の第３９条で「婦人ニテ謂レナク断髪スル者」という、いわゆる「女子断髪禁止令」を発布したこともあり、女性の髪型はそれまでとほとんど変わりませんでした。その主な髪型は額の上の髪は後ろに、両脇の髪は左右両側に広がるように、後頭部の髪は襟足にそって背中の方に張り出させ､その３部分を頭頂部で束ねて髷を結い､整髪用油で固めるというものです。結うために髪結師の手が必要で時間もかかり､５日に１回位油を使って髪を結い直しましたが、簡単に洗髪もできないため結ったまま寝ていました。

しかし服装同様、鹿鳴館開館と政府の欧化政策により髪型にも変化が始まり、１８年（１８８５年）６月に大日本婦人束髪会が医師の渡辺鼎や経済雑誌社の石川映作により東京で、１０月には大阪でそれぞれ設立されました。同会が提案した束髪という髪型は、洋髪を参考にしながらそれまでの髪型に改良を加えたもので、洗い髪を水油で整えた後、額中央から髪を左右に分け、後頭部で一度束ねてから三つ編みなどで垂らしたりして髷を作るなど様々な髪型があります。それまでの髪型と比べて軽い・自分でも簡単に結えるため頻繁な洗髪と結いを解いての就寝が可能・運動の際の髪型の崩れがないなど、機能性もありました。

こうした特徴があることから､「女学雑誌」１８年（１８８５年）７月２０日の創刊号で大日本婦人束髪会を紹介し、第２号第３号で同会の主旨書・規則書を、第４号第５号で図解入り解説を掲載しました[1)]。束髪の女学生への普及に「女学雑誌」が貢献していたといえるでしょう。

また、朝野新聞１８年（１８８５年）９月１５日号に東京日本橋を午後２時から１時間に通過した女性の髪型の調査結果が掲載され、それによると旧来の髷４０４人、束髪５２人、日本風束髪３７人で、大日本婦人束髪会設立後３ヶ月で束髪が１８％に達しています。難波知子の調査でも千葉、山形の尋常師範学校、桜井女学校で束髪が確認されています[2)]。

東京女子師範学校を例にして見ると、８年（１８７５年）１１月２９日の開校式では､「洋銀桜花の簪（かんざし）を徽章とし、結髪は唐人髷（とうじんまげ　江戸時代末期から明治期に結われた髪型）に定められ、初一年位は装髪師を雇って装飾させたが、後には生徒各自が結髪することとなった。」が、１２年（１８７９年）１月頃から１５年（１８８２年）１２月頃までは「唐人髷、いちょうがへし（江戸時代末期から明治期に結われた髪型）と為し、別に一定の簪を使用せずして、通常の青年女子と異るところなからしめた。その後も島田髷（しまだまげ江戸期の一般的な髪型）も差支なしと定められた。」[3)]ということです。ところが１８年（１８８５年）８月に洋服が支給され、併せて束髪が提唱されたことで、１９年（１８８６年）７月の卒業写真撮影に際して、このときの様子を卒業生は追憶談の中で､「唐人髷の前うしろに簪をさして、卒業の写真をとりましたものが一変致して、束髪に薔薇の花をさしたり、（中略）苦心致したので御座います。」[4)]と述べています。女子高等師範学校では２６年（１８９３年）７月以降の卒業写真から服装は洋装から和装へと変わっても髪型は束髪のままでした。跡見学校では３２年（１８９９年）４月の式典では頭髪に大きなリボンを結びました[5)]。洋装が規定されていた高等師範女子部や華族女学校では束髪でしたが、洋装既定のない東京高等女学校や

女子学院では束髪洋装・結髪和服・束髪和服などが見られました[6]。

束髪は洋装の場合だけでなく、和服にも合せて髪型を変えることができましたがなぜ広く普及したのか、本田和子は生活の利便性への希求と変身への願望が結びついたことによると述べています[7]が、この他に難波は流行の力学や男性による女性への啓蒙思想も絡み合う大きなうねりを作り出し、かつ和装に束髪を合わせるスタイルが一定の評価を得たことで洋装以上に広範囲に普及し定着をみせたと述べています[8]。

３３年（１９００年）以降女学生の服装の大半が女袴になると束髪もこれに合せるように、前髪を膨らませて髷を結う型が広まりますが、「魔風恋風」のヒロイン萩野初野の髷を結わず切り下げの形（写真１）[9]や「青春」のヒロイン小野繁の後頭部をバサつかせ、前髪を押潰した形はいずれも少数で、これは女学生を特異化し「ハイカラ」と受け止めるためであると本田は述べています[10]。他方で、黒岩比佐子は萩野初野の結流しはきちんと髪を結わない姿でみっともないという従来の美意識で異端の髪型であったが、３０年代後半になるとこの姿が美しいと認められるほど美意識が変わってきたと述べています[11]。３６年（１９０３年）５月発行新撰東京名所図會に掲載されている「華族女学校玄関前の園」図（写真２）では袴着用では束髪髷１人に対して束髪結流しは７人[12]で、結流しが必ずしも少数とはいえなかったようです。

写真１　３６年「魔風恋風」単行本の挿絵[9]

写真２　３２年東京名所図会　華族女学校[12]

５．女学生の自転車乗車時における服装と髪型

乗車時における服装と髪型に関して３４例を調べました。その中で最初に広告・雑誌の表紙絵や挿絵等に描かれている様子を見てみましょう（写真１・写真３～写真１９）。

写真３　２８年口絵[13]

写真４　３４年表紙[14]

写真５　３４年挿絵[15]

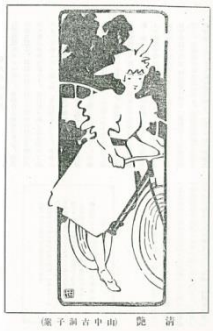

写真６　３５年挿絵[16]

写真７　３５年表紙[17]

写真８　３６年表紙[18]

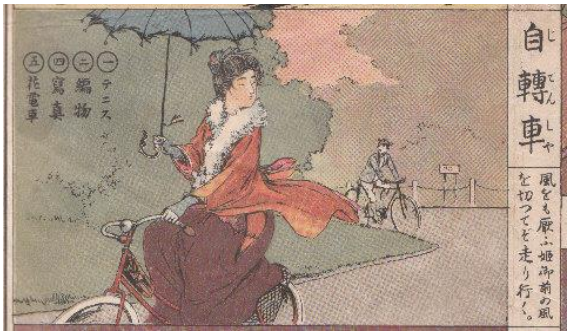


写真９　３６年雙六絵[19]

写真１０　３６年表紙[20]

写真１１　３７年引札[21]

写真１２　３８年頃引札[22]

写真１３　３８年表紙[23]

写真１４　３８年頃挿絵[24]

写真１５　３８年口絵[25]

写真１６　３８年広告[26]

写真１７　４４年雙六絵[27]

写真１８　４５年広告[28]

写真１９　大正元年広告[29]

これらを見ると服装は１８件中和服が１５件でこのうち２８年の男袴以外はすべて女袴、振袖は１３件、たもと袖は１件です。髪型は和服着用時においてはすべて束髪で、このうち結流しが１２件、リボン付けが１５件です。特に服装が振袖の和服で女袴、髪型が結流しでリボン

を付けている姿が１１件で、年代的には３４年（１９０１年）から３８年（１９０５年）に集中しています。こうした広告・雑誌の表紙や挿絵等はいるいわゆるイメージとして描かれているものですが、同時期の引き札に描かれている自転車に乗る女性の姿も、ほとんどが振袖の和服で女袴、髪型が結流しでリボンを付けている姿です[30]。しかし、同じイメージとしても３８年（１９０５年）以降は、服装がたもと袖で髪型が髷を結ってリボンを付けるスタイルに変化しています。また東京毎日新聞３８年３月３０日号と４０年６月２２日号のいずれにもたもと袖で髪型が髷を結ってリボンを付ける絵が掲載されています。

この広告としての商品価値の高さを引き札に用いて販売促進に利用するほか、芸妓も自己アピールに使っていました。芸妓が自転車に乗るようになったのは３３年（１９００年）頃からで、３４年（１９０１年）の新聞記事では筒袖赤襦袢で股引を着用して、巡査の制止にも関わらず通行人の間を走りぬけるのは広告半分の異様な姿と伝えています。

> 牛込神楽坂の芸者屋藤本の小はん(１９)新藤本のつる吉(２１)‥自転車の稽古をなす‥緋メリンスの筒袖襦袢に薄色メリヤスの股引、緋縮緬の細帯を結びて下げたり此姿にて自転車二輌但し借物‥巡査の制止も肯ずして‥廣告半分異様の姿に人目を惹きて稼業の繁昌を祈るもの‥一昨日両人例の如く赤襦袢にて乗廻はし居たる所へ警官通行して街路取締規則に違反すると認め直ちに取押へん

また本田和子著「女学生の系譜・増補版　彩色される明治」（青弓社　２０１２年）の２５ページに芸妓が振袖の和服で女袴、束髪で髷を結った髪型でリボンを付けて自転車に乗っている姿の写真が掲載されていますが、これなどはまさしく女学生の表象を利用した広告といえます。

これに対して事実として得られる情報すなわち新聞・雑誌の記事、状況写真によるもの１０件をまとめたのが表１です。

表１　新聞・雑誌の記事、状況写真による自転車乗車時の服装と髪型の調査結果

| 年代 | 内容 | 出典 | 人数 | 服装 | 髪型 |
|---|---|---|---|---|---|
| 27年 | 記事 | 「読売新聞」 8月4日 | 1 | 更紗の洋服 | |
| 32年 | 絵 | 「新撰東京名所図會」 5月28日 | 1 | 洋服(ブラウス・ロングスカート) | 束髪髷・ハット |
| 34年 | 記事 | 「読売新聞」 2月12日号 | 十数人 | 羽織・被布の和服・女袴 | 束髪髷・リボン |
| 32～40年 | 記事 | 狛江市ホームページ http://www.city.komae.tokyo.jp/index.cfm/28,835,138,52,html | 1 | 洋服 | |
| 34年 | 記事 | 「自転車」第6号 | 1 | 女袴 | 束髪(イギリス銀杏返し) |
| 34年 | 記事 | 「東京朝日新聞」 5月4日 | 2 | 筒袖襦袢・股引　細帯 | |
| 35年 | 記事 | 「輪友」第9号 | 2 | 洋服(上衣は白　ロングスカート) | 帽子 |
| 37年 | 絵 | 「風俗画報」第281号 | 2 | 振袖の和服・女袴 | 結流し・リボン |
| 40年頃 | 写真 | 日本女子大学校 | 6 | たもと袖の和服・女袴 | 束髪髷 |
| 42年 | 記事 | 「輪界」第12号 | 1 | 冬:二重回し　夏:筒袖 | |

これを見ると、振袖の和服で女袴、結流しでリボン付は３７年（１９０４年）の１件だけです。服装は洋服４件、股引・筒袖が各１件、髪型は結流しが前述の１件のみで髷結が４件あります。洋服は３５年（１９０２年）以前に多いことから、女袴の普及と関係していると考えられます。

写真２０　３２年新撰東京名所図會[31)]

写真２１　３７年挿絵[32)]

写真２２　４０年頃日本女子大学[33)]

女子師範学校の卒業写真から考察すると、２８年（１８９５年）は洋服から和服に戻った時代ですが、前号で難波が指摘しているように２４年以降も洋装が断続的に実施されていた可能性があることから洋服が消えたわけではなく、また袴を着用しない和服では自転車に乗ることには無理があります。女袴が広く普及し始めたのが３３年（１９００年）以降とすると３２年（１８９９年）も洋服での利用となります。３５年（１９０２年）の上衣が白のロングスカートで帽子を着用しているのはレース参加者である故でしょう。また４２年（１９０９年）の女学生の通学の様子を期した手記[34)]の中に「自転車と言えば一時大分流行して猫も杓子もと云ふ調子で婦人までが見得の様に乗回したものですが、近頃余り、女の自転車乗を見懸け無く成ったのは多分思った程、見た格構體裁の好くないせいだらうと思ひます。」という記載があり、この女学生の登下校時の服装が当時の大方の服装であったと推察できます。すなわち振袖やたもと袖であれば走行中のハンドル操作に支障が生じやすいので筒袖が適しており、冬は二重回しの着用になるでしょう。記述はないものの女袴で髷の束髪であったことは当時の２０歳代前半までの女性としては一般的でしたので、容易に推察できます。

　ではなぜイメージとして描かれているもののほとんどが振袖の和服で袴、結流しでリボン付なのでしょうか。読売新聞３７年（１９０４年）１２月２０日号に、本物の女学生かどうかは定かではないのですが、女学生を気取って袴姿で写真を撮る女性たちが登場したという記事があります。

> 「海老茶袴と言へバ一斑女学生を代表する如くなれど、其実女学生にあらずして或る一種の意味の下に同じ海老茶袴を穿てる女の甚だ少なからず。但し女学生を衒ひたる婦人なるや否やハ判然せざるも今写真師に就きて撮影者の種類統計を見るに最も多きハ女学生らしき袴を着け靴を履きたる十七八歳より二十三四歳までの婦人、‥扨て女学生が写真を撮りて是れを奈何にすべきかハ敢て問ふの必要なきも‥斯るものを更に後日より増焼きせしむる婦人も少からず

これについて、佐伯順子は卒業時の正装写真として新聞に掲載されていた束髪の髪飾りや着物が華やかな印象を醸し出し、時代の先端としての知的な印象を与える女学生の表象が、写真の被写体として商品化されていく現実は、メディアのなかの女学生が視線の客体となり、視覚的欲望を喚起する存在として対象化されていくことを意味すると述べています。これに自転車が加わることで時代の先端を行く広告として、その商品価値がさらに高くなったといえます。このため女学生が自転車に実際に乗っていたかどうかは定かではないのですが、たもと袖の和服

で女袴を着用し、髪型は結流しの姿で自転車と一緒に記念写真として撮影していることもあります（写真２３）。この他に３４年の女子嗜輪会の集合写真（写真２４）では全員が女袴ですが、振袖で結流し・リボンが１人、たもと袖で結流し・リボンが２人、たもと袖で束髪の髷が１人でたもと袖が多くみられます。４２年と４２年～４５年の２枚の写真（写真２５・２６）もたもと袖で束髪の髷です。

写真２３　３５年頃の記念写真[35]

写真２４　３４年の記念写真[36]

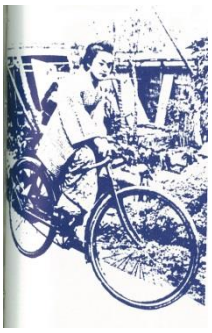

写真２５　４２年渋川市[37]

写真２６　４２年～４５年宮崎市[38]

自転車乗車時における服装に関しては、３４年（１９０１年）１０月２４日の警視庁令第６１号全１７条の中の第６条に「道路又ハ道路ニ面シタル場所ニ於テ乗車スルトキハ、袴若ハ股引ノ類ヲ着用スベシ」、３５年（１９０２年）８月１２日の秋田県自転車取締規則第２条に「道路又は道路に沿ふたる場所に於て自転車を乗車するときは膝以上を露出せざる相当の服装を為すべし」などが規定されていますが、髪型に関しては規定がありません。表１で股引を使用しているのは芸妓のみでしたが、赤色を着用していることから注目を得るための演出とも考えられます。

ちなみに風俗画報３６年（１９０３年）１２月１０日号に描かれている女子師範学校付属高等女学校の秋季運動会の様子を見ると確認できる範囲内で、服装は袴姿２８人でこのうち振袖１３人・たもと袖２人・筒袖３人、洋装２人、髪型は束髪の髷結１０人・結流し７人です。これらを参考に明治期の女学生もしくは女性の自転車乗車時の姿を考えると、服装はロングスカートの洋服か女袴の和服で、袖は当初はたもと袖であったが３５年（１９０２年）以降は筒袖も多くなり、髪は束髪で、結流しもいたであろうが髷を結う方が多くなり、リボンは任意であったと推察できます。

［引用文献］


１）本田和子　「女学生の系譜・増補版　彩色される明治」　青弓社　２０１２年　３２～３４ページ、難波知子　「学校制服の文化史」　創元社　２０１２年　５５ページに解説・図の一部掲載されている

２）難波知子　「学校制服の文化史」　創元社　２０１２年　６７ページ

３）お茶の水女子大学百年史刊行委員会　「お茶の水女子大学百年史」　お茶の水女子大学　１９８４年　４７ページ

４）お茶の水女子大学百年史刊行委員会　「お茶の水女子大学百年史」　お茶の水女子大学　１９８４年　５２ページ

５）跡見学園の歩み（http://www.atomi.ac.jp/progress/visual_identity/uniform.html）に１８９年（明治３２年）に制定した黒紋付式服と題した写真が掲載されており、「生徒はこれに平常時の袴をあわせて卒業式等に臨んだ」として頭髪にリボンを結んだ姿が映っている。

６）難波知子　「学校制服の文化史」　創元社　２０１２年　６５ページ

７）本田和子　「女学生の系譜・増補版　彩色される明治」　青弓社　２０１２年　３９～４

０ページ
８）難波知子　「学校制服の文化史」　創元社　２０１２年　６８～６９ページ
９）小杉天外　「魔風恋風　前篇」　春陽堂　折込絵　１９０３年
１０）本田和子　「女学生の系譜・増補版　彩色される明治」　青弓社　２０１２年　２１ページ
１１）黒岩比佐子　「明治のお嬢さま」　角川選書　２００８年　１８５ページ
１２）風俗画報臨時増刊「新撰東京名所図會」第１８９号　東陽堂　１８９９年　口絵
１３）渡邊修二郎　「自転車術」　少年園　１８９５年　口絵
１４）「自転車」　第６号　日本自転車史研究会　１９８３年　表紙
１５）「輪友」　第１号　輪友社　１９０１年　１１ページ　挿絵
１６）「輪友」　第１１号　輪友社　１９０２年　挿絵
１７）「輪友」　第１３号　輪友社　１９０２年　表紙
１８）「輪友」　第１５号　輪友社　１９０３年　表紙
１９）三越時好雙六
２０）「自転車」　第３３号　快進社　１９０３年　表紙
２１）引き札「若園染舗」　１９０４年
２２）引き札「猪俣商店　坂杉商店」　１９０５年頃
２３）「自転車」　第５１号　快進社　１９０３年　表紙
２４）挿絵　１９０４年～１９０５年頃
２５）「少年」　第２６号　時事新報社　１９０５年　口絵
２６）開盛商会広告　「清輪」　第１号　清輪社　１９０５年　挿絵
２７）「女学世界」　１９１１年正月号付録　現代流行雙六
２８）軽輪商会製造場広告　「輪友雑誌」　第１２１号　輪友雑誌社　１９１２年　挿絵
２９）丸石商会広告　「輪友雑誌」　第１２３号　輪友雑誌社　１９１２年　挿絵
３０）にいがた文明開化ハイカラ館のホームページには３枚の引き札が掲載されている
（http://hikarataro.exblog.jp/16394368/）
３１）風俗画報臨時増刊「新撰東京名所図會」第１８９号　東陽堂　１８９９年　挿絵
３２）風俗画報　第２８１号　東陽堂　１９０４年　挿絵
３３）佐野裕二　「自転車の文化史」　文一総合出版　１９８５年　１７７ページ
３４）「輪界」　第１２号　輪界雑誌社　１９０９年　１５ページ
３５）３５年頃の記念写真　自転車文化センター所蔵
３６）自転車センター所蔵　元出典は「自転車」　第６号　快進社　１９０１年　表紙裏の写真
３７）「自転車」　第７６号　日本自転車史研究会　１９９４年　１９ページ　元出典は「目で見る渋川　明治・大正・昭和歴史写真集」　１９８１年　渋川市
３８）「自転車」　第６４号　日本自転車史研究会　１９９２年　１５ページ　元出典は「写真集宮崎　１００年」　１９８２年　宮崎日々新聞社

［参考資料］
本田和子　「女学生の系譜・増補版　彩色される明治」　青弓社　２０１２年
難波知子　「学校制服の文化史」　創元社　２０１２年
佐伯順子　「明治＜美人＞論　メディアは女性をどう変えたか」　ＮＨＫブックス　２０１２年

黒岩比佐子　「明治のお嬢さま」　角川選書　２００８年
稲垣恭子　「女学校と女学生」　中公文庫　２００７年
脇田晴子他編　「日本女性史」　吉川弘文館　２０１１年
学習院大学五十年史編纂委員会　「学習院大学五十年史　上巻」　２０００年
お茶の水女子大学百年史刊行委員会　「お茶の水女子大学百年史」　１９８４年
アリス・ベーコン　久野明子訳　「華族女学校教師の見た明治日本の内側」　中央公論社　１９９４年
跡見学園－一三〇年の伝統と創造」　跡見学園　２００５年
斎藤美奈子　「モダンガール論」　文春文庫　２００３年

## 私が読んだ本

ＢＣＣ学芸員　谷田貝一男

［体験］

「スコット親子、日本を駆ける」　チャールズ・R.スコット著　児島修訳　紀伊國書店　１９００円＋税

アメリカの大手半導体会社に勤めていた著者は、家族と一緒に過ごす機会がほとんどありませんでした。そこで、８歳の息子と過ごすために２台の自転車を連結して旅行に出かける計画を立てました。そのために会社を辞める覚悟で長期間の休暇を申し出たところ、なんとその休暇が認められたのです。奥さんが日本人であることから、日本を北から南まで縦断することになりました。６７日間の旅の期間中、過酷な自然環境の中で走らなければならなかったことや、多くの人たちとのさまざまな出会いもありました。これらの経験を通して親子の絆が深まり、息子が精神的に大きく成長していく、単なる紀行文とは違った感動が得られます。

「とことん自転車」　鶴見辰吾著　小学館新書　７２０円＋税

芸能界でも一、二を争う自転車好きとして知られている著者は、俳優としてテレビに舞台に活躍し、収録や撮影のために多忙極めている中、いつどこでどのくらい自転車に乗っているのか、不思議に思っていました。この本を読んで、そうだ、こういう時間の使い方をすればいいのだということが発見できます。また著者自らの体験を通じて、自転車の楽しみ方・快適で安全な乗り方なども紹介していますので、自転車に乗るのは好きだけれど、仕事に追われて休日のときくらいしか乗らないという人はもちろん、買い物や通勤通学のときしか利用していないという人にも役立つ一冊です。

［物語］

「壊れた自転車でぼくはゆく」　市川拓司著　朝日新聞出版　１５００円＋税

小さな古い家に長年閉じこもっていた祖父が入院すると、ぼくとの恋が破局しかけていた彼女に会いたいと言い出しました。ぼくは仕方なく彼女を病院に連れて行くと、祖父は高校生時代に互いに想いを寄せていた女性と、ようやく一緒になれたのも束の間、永遠の別れとなってしまったことを語り始めました。その話を聞いたぼくは彼女と共に壊れかかった自転車で、閉じこもりになった理由探しに出かけると、祖父の純粋な心と悔

いのない人生だったことが分かり始めました。その祖父とぼくが重なって見えたのか、彼女はぼくに再び想いを寄せてくれました。はかない恋も自転車がタイムマシンになって成就してくれる、読み応えのある文学書です。

［科学］

**「自転車のなぜ」　大井喜久夫ほか著　玉川大学出版部　４２００円＋税**

自転車は二輪で動く乗り物です。動くためには力が働き、倒れないためにも力が働きます。でもどのような種類の力がどこから、どこにかかるのでしょうか。ペダルをふんで進むとき、ブレーキをかけるとき、カーブを曲がるときなど様々な場面があります。また軽いにも関わらず人を支え、小さな力で動かせ、安定して走ることができるなど不思議な乗り物が自転車です。このようななぞを解明するために、自転車の構造と自然現象を図解入りで解説していますので、自転車を通して力、すなわち運動に関する科学に対する理解が深まります。小学生高学年から中学生向けですが、大人が読んでも役に立つ一冊です。